

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

一人ひとりの児童生徒の教育的ニーズに応えることのできる、創造的で柔軟な学校。

児童生徒や保護者にとって、自立と社会参加にむけて楽しく安全で安心して学ぶことができ、教職員のやりがいと誇りがあり、地域から信頼される学校をめざす。

- (1) 児童生徒の人権を尊重し、保護者とのコミュニケーションを十分に図りながら、個別のニーズに応じた教育(適切な指導及び医療的ケアを含む必要な支援)を行い、才能を引き出すとともに能力を高める。
- (2) 教員は特別支援教育の専門性を高めるために、常に研修を行い、組織による教育力を高め、健康と安全を基盤とした教育の質を常に向上させる努力をする。
- (3) 泉州地域における共生社会実現をめざし、特別支援教育のセンター的役割を担うため、地域や関係諸機関等との密接な連携を図る。

2 中期的目標

1 授業力を含む専門性向上の取組(児童生徒の認知特性を理解し、ティーム・ティーチングを活かす)

- (1) 多様化重度化する児童生徒の課題に対応する専門的知見を導入しつつ、自立活動に関する専門性をより一層充実させていく。
 - ア 平成 26 年度学校経営推進費で最新技術を応用した教材教具や支援機器を導入し、教育支援のイノベーションを進める。
 - イ 「福祉・医療関係人材の活用事業」等の活用を継続し、各領域・分野で核となる人材の組織的計画的な育成を図る。
- (2) 校務分掌等組織の更なる連携強化による教職員の専門性の向上体制の確立
 - ア 指導教諭や経験の豊かな教員による研究授業を積極的に推進する。
 - イ グループ研究の活性化を図り、地域に情報提供する。

2 個別の教育支援計画・指導計画の進化による、授業および一人ひとりの児童生徒への支援の充実

- (1) 個別の教育支援計画・個別の指導計画の PDCA(計画、実行、評価、改善)サイクルを効果的に進める。
 - ア PDCA サイクルによる作成された支援計画と指導計画の活用の充実を図る。
 - イ 訪問教育体制の充実を図る。
 - ウ 児童生徒の教育や支援に関する情報のポートフォリオ化とセキュリティ対策の構築を学部単位で行う。
- (2) 授業改善と教育課程の見直し
 - ア 授業公開と授業の外部評価を推進し、授業改善に結びつける。
 - イ 小学部段階から発達段階に応じた「生きる力」をつける教育(キャリア教育)を進める。
- (3) 医療的ケアの必要な児童生徒の安全安心な学校生活を保障するために校内体制の充実を図る。
 - ア 登録特定行為事業者として、医療との連携のもと、新法制度への対応を円滑に進める。
 - イ これまでの研修に加えて、新たに「認定特定行為業務従事者である教員のフォローアップ研修」を開発する。
 - ウ 定期的に安全点検を行い、緊急時を想定したマニュアルの確認とシミュレーションを実施検証する。

3 センターの機能の充実と安心で安全な学校づくり

- (1) 地域の支援ニーズに応えるためのハードウェアである「地域支援室(仮称)」を設置する。
 - ア 大規模災害にも対応できる防災拠点としての機能の充実。必要な施設設備や校内の設置場所について検討する。また、PTA との合同防災避難訓練についても検討する。
 - イ 就学後の継続した連携(ケース会議等)について、市町教育委員会等関係機関との連携の場を計画的に設ける。
 - ウ 居住地交流をモデル化し推進するための校内体制の充実を図る。
- (2) 校務運営組織の改善
 - ア 運営委員会が中心となり、会議の持ち方や業務の見える化 ICT 活用を通じ効率的効果的な校務運営を行う。
- (3) 児童生徒の人権尊重教育を推進する。
- (4) 安全衛生委員会の活性化を図る。
 - ア 教職員の健康維持・増進を図る。
- (5) 情報発信の充実を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 9 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○児童生徒・保護者・教職員・外部機関を対象に実施。教職員の回収率は、98%で保護者については 66%で昨年より 3%下がっている。今後、保護者へのアンケートの協力を事前をお願いしていきたい。</p> <p>【学習指導等】 教職員では「個別の指導計画の作成、PDCA サイクルの確立」と保護者からは「子どもの人権やプライバシーに配慮した指導」についてともに 5%以上の増加であった。指導計画の作成について校内での初任者研修で取組んできた成果と考えられる。</p> <p>【生徒指導等】 「進路・生活支援や支援教育に関する情報が保護者に十分提供している」については前年度より 10%以上の減少となっている。進路に関する情報等の提供について進路指導部を中心に組みたい。</p> <p>【学校運営等】 学校は授業についての十分な話し合いができる時間を確保できているが 53%となっている。今後、会議の内容や精選も検討していきたい。</p>	<p>第 1 回 (5/21)</p> <p>○耐震について ・学校の耐震はどうなっているのか。窓ガラス破損の対策はしているのか。窓ガラスが飛び散らないようシールを張るなどの防災対策を検討してほしい。</p> <p>○地域支援室について ・防災や教育コミュニティー、キャリア教育を含め地域との関わりを深めてほしい。</p> <p>第 2 回 (10/15)</p> <p>○キャリア教育について ・保護者の低下よりも教員の低下が大きくなっている。キャリア教育の共通理解が十分にできていないのではないかと。教員の世代交代で保育園でも初任の先生方が多い。目標値が高いのではないかと検討してほしい。</p> <p>第 3 回 (2/18) 予定</p> <p>○キャリア教育マトリックスについて ・教務と進路指導部が連携し就労も含めた生きる力をどのようにつけていくのか、小中高の流れの中で図式化していく。</p>

府立岸和田支援学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 授業力を含む専門性向上の取組	<p>(1) 平成 26 年度学校経営推進費で最新技術を応用した教材教具や支援機器を導入し、教育支援のイノベーションを進める。</p> <p>ア「楽スタ」 イ「タブレット型PC」 ウ 運動量計</p> <p>(2) 教職員の専門性の向上 ア 指導教諭や経験の豊かな教員による授業研究を積極的に推進する。</p>	<p>(1) ア・自立活動部が中心となり、「楽スタ」(重力軽減環境訓練システム)を活用した新しい自立活動についてより多くの児童生徒の指導が可能となるよう整備する。今まで通り、成果についてもHPで情報発信していく。「楽スタ」を導入している学校等と連携し、実践交流会を開催し情報を共有していく。楽スタ体験型教育相談を実施し、通級指導の受け入れも検討する。</p> <p>イ・自立活動部、訪問教育、グループ研究において「タブレット型PC」を活用して、コミュニケーション指導、教材アプリケーションの活用に取り組む。「魔法のワンドプロジェクト」に応募し、研究協力校として外部の機関等とも連携し実践研究を進める。</p> <p>・研究部が中心となり、研究課題「マルチメディア活用による国際交流」と題して、企業の実践研究助成に応募し国際交流の在り方を探り、実践研究を進める。</p> <p>ウ・グループ研究において、運動量計を活用した運動に関する指導・支援について実践研究を進める。</p> <p>(2) ア・研究部を中心として、指導教諭や6年以上の教員による研究授業を行う。</p>	<p>(1) ア・進捗状況や成果をホームページ等積極的に情報発信する。・楽スタ設置校と連携し実践交流会を行う。</p> <p>・楽スタ実践のできる教員を40%以上にする。・楽スタ適応の児童生徒数40%以上にする。・教員アンケート肯定評価を80%以上にする。</p> <p>・楽スタ体験型教育相談をゼロから1~2回実施する。</p> <p>アイ・公開成果発表会を合わせて年3回以上行う。</p> <p>イ・情報の授業におけるICT活用による交流とビデオレターによる交流をする。</p> <p>ウ・グループ研究の実践成果を発表する。</p> <p>(2) ア・パッケージ研修を活用し教職員の意識改革を図る。</p>	<p>(1)ア・学校経営推進費で、新たに3台増設し整備した。動画をHPにて発信中。楽スタ実践交流会を2/13に実施。肢体不自由支援学校と協力し楽スタの取組について実践報告会を3回実施。楽スタ体験型教育相談のパンフレットを作成し地域に向け発信した。地域の小学校2校の児童に体験型教育相談を実施し、のべ4名の児童が体験。今後どのように進めていくかが課題である。(◎)</p> <p>イ・タブレット型PCを活用し会話補助装置として利用。メール・テレビ電話機能を使ったコミュニケーションを指導。結果をポスター発表。訪問生の始業式・終業式で校長の挨拶をPCで実施。修学旅行先と訪問生の中継等を実施。企業の実践研究で、ビデオレターを生徒が作成し国際交流を行った。(○)</p> <p>ウ・高等部5名の生徒の実践研究の結果をまとめ、研究紀要「きしわだ」に掲載予定。</p> <p>(2) ア・研修でKJ法を実施。本校独自の授業観察表を作成(○)</p>
2 授業および一人ひとりの児童生徒への支援の充実	<p>(1) 個別の教育支援計画・個別の指導計画の進化 ア PDCA サイクルによる支援計画と指導計画の充実を図る。</p> <p>イ 訪問教育の充実 ウ ポートフォリオの作成</p> <p>(2) 授業改善と教育課程の見直し ア 授業公開と授業の外部評価を推進し、授業改善に結びつける。</p> <p>イ 小学部から発達段階に応じたキャリア教育を進める。 ウ 訪問教育の充実</p>	<p>(1) ア・教務部が中心となり、個別の教育支援計画の内容や利用法の検討を行う。課題反省会議の成果を、次期暫定支援内容とするなど、「個別の指導計画」の評価が次の「個別の指導計画」へ速やかに生かされるよう実施する。そのための児童生徒に関する情報のポートフォリオ化し学部間連携にも活かしていく。</p> <p>(2) ア・研究部が中心となり、平成27年度開催予定の近畿地区肢体不自由教育研究協議会に向け、一学期から積極的に公開授業を行い、ビデオや評価シートを活用した授業改善を進める。</p> <p>イ・教務部が中心となり、小学部から高等部までの一貫した「生きる力」をつけるキャリア教育を教育課程に位置づけ推進する。</p> <p>・進路指導部が中心となり、教務部関係部署が連携し、小中高各部のキャリア教育について内容や目標等について整理し、個別の指導計画、教育支援計画に記載する。</p>	<p>(1) ア・教員の「PDCAサイクルが学校として確立できている」を69%から80%</p> <p>ウ・ポートフォリオ化を25%(各部1年)</p> <p>(2) ア・全学部が各学期に一回以上の公開授業研究をおこなう</p> <p>イ・保護者アンケート「小学部段階からキャリア教育の推進ができています」を67%から80%</p> <p>・教員アンケートにおいて「キャリア教育ができていと思う」割合を71%から80%に</p>	<p>(1) ア・PDCAサイクルが81%で目標より1%あがった。(○)</p> <p>イ・初任者を対象に訪問教育実地研修や学部内での同行訪問の充実を図った。(○)</p> <p>ウ・データでの情報集約は各学年1年生より実施した。各部25%達成。(○)</p> <p>(2) ア・1学期は小、2学期は中・高で3学期は授業研究・公開授業を実施。初任者12名は研究授業を実施した。(○)</p> <p>イ・キャリア教育についての保護者アンケート(9月)は63%と4%下がっている。教員アンケート(9月)は61%であったが、(1月)については70%と9%上がっている。教員への周知を徹底していきたい(△)</p> <p>ウ・サマーコンサートを開催。訪問生、保護者同士との交流を図った。今後も学習発表会・作品展の参加をすすめていく。(○)</p>
3 センター的機能の充実と安全で安心な学校づくり	<p>(1) 「地域支援室(仮称)」 ア 大規模災害にも対応できる防災拠点としての機能など、必要な施設設備や校内の設置候補場所についての検討をする。</p> <p>(2) 安全衛生委員会の活性化を図る。</p> <p>(3) 情報発信の充実</p>	<p>(1) ア・運営委員会に「地域支援室」を立上げ、基本構想をまとめる。基本構想に基づき基本計画及び具体的詳細を検討する。</p> <p>イ・大規模災害にそなえ通学時や在宅時も含め、対応マニュアルを作成し訓練を実施する。</p> <p>ウ・地域支援部が中心となって、現在行っている居住地校交流をモデル化し、推進するための課題整理や体制づくりを進める。実施に際しては、個別の教育支援計画に記載するとともに個別の指導計画を作成する。</p> <p>(2) 安全衛生委員会が中心となり、個々の教職員の経験と強みを組織の特色として活かせるよう研修に取り組む。</p> <p>(3) ア・ホームページの更新月4回以上各分掌長・部主事が更新できるようシステムを整える。</p> <p>イ・本校の実践内容が見える化できるようパンフレットを新しく作成する。</p> <p>ウ・情報・教育部が中心となり、教育実践の成果や日々様子についてホームページで発信する。</p>	<p>(1) ア・地域支援室の設置に必要な予算の要求準備を行う。</p> <p>イ・帰宅困難時、通学時、在宅時対応マニュアルの作成、体制づくり人材育成を図る。</p> <p>ウ・すべての市町村での居住地校交流の実施</p> <p>(2) 「授業について話し合う時間が確保できている」は、50%を60%に</p> <p>(3) 英語版ホームページの作成</p> <p>・ホームページの更新月4回以上</p>	<p>(1) ア・地域支援室を設置する部屋を整理、廃棄物等の予算要求し、廃棄完了。地域支援室設置(◎)</p> <p>イ・大規模災害に備え、地域とともに研修会を開催。PTA 実行委員会の協力のもと訓練を実施。備蓄品等の確保。(○)</p> <p>ウ・J 小学校、S 支援と本校の3者による協働研究として「交流及び共同学習の取組」を実施。「授業づくり」に重点を置きニーズに対応した内容をめざした。交流の様子はブログにて紹介。居住地交流は3市1町でのべ20回以上の交流を実施。(○)</p> <p>(2) 授業について話し合う時間の確保は53%で3%上がったが60%には達しなかった。(△)</p> <p>(3) ア・各種ブログを合わせると月5回以上の更新。研修のお知らせ、同窓会のHPをアップ。1学期に分掌部長や部主事向けにブログアップ講習会を開催。専用のアカウント作成。英語版のHPを開設。(○)</p> <p>ウ・「岸和田ダイアリー」(ブログ)を活用し行事での児童生徒の様子や教員の研修について情報発信した。(○)</p>